施策評価シート （評価対象年度：令和元年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	1 路線の充実と車両の増強	② 施策番号	3202
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	5 快適で活気にあふれ、環境にやさしいまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	2 活気にあふれるとともに快適で美しく、市内・市外がネットワークで緊密に結ばれ、だれもが使いやすいまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	2 バスの利用促進		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
市民生活環境部	環境整備課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	市民(バス利用者)
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	市民の生活交通や交通弱者に対する交通手段を確保する。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	市民の移動手段が確保でき、高齢者や障害を持った方の外出意欲の高揚が図られる。買物難民への対応が必要である。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)		単位	指標とした理由・考え方
①	利用者数 計算式	人	コミュニティバスの利用状況が明らかになる。
②	計算式		
③	計算式		

指標名	単位	H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	備考	
① 利用者数	人	目標値			155,000	158,000		
		実績値	156,631	151,477	153,093	—	—	
		達成率						
②		目標値						
		実績値						
		達成率						
③		目標値						
		実績値						
		達成率						

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化	
		指標名	単位	H30実績	R1実績	R2見込	H30実績	R1実績	R2見込	総合評価		今後の方向性
1	コミュニティバス運行事業	申請率	%	2	2	2	57,223	57,003	57,015	A	イ a	
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	1						57,223	57,003	57,015			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	市民の交通手段の一つになっている。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	H30年度は台風21号、R1年度はコロナ禍の影響で、利用者数が減少したが、増加傾向に
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	市民に利用いただけるバスの運行を目指す。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	リンクしており、適正である。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	市民生活の交通手段を確保する上で必要である。

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
	B	コース、ダイヤ等の更新時には、利用状況や利用者ニーズを把握し、利用促進に向けた運行計画を立てる必要がある。(デマンドバスの必要性の検討を含む)	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	コース・ダイヤの改正に伴う利用者数の増減の原因把握とデマンドバスの必要性の研究
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	次期更新時に向けた市民アンケートを実施し、利用者ニーズに合ったコース・ダイヤ等の改正を行う。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	—

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
	B	コミュニティバスの利用者数は目標値付近で推移しており、適切に取組が行われている。 利用状況や利用者ニーズの継続把握により、利用促進に向けた取組を引き続き実施されたい。	